

令和元年度第1回千葉地域医療構想調整会議 開催結果

1 日時 令和元年11月13日(水) 午後7時から午後8時5分まで

2 場所 千葉県教育会館本館303会議室

3 出席委員

委員：総数28名中25名出席

斎藤(博)委員、大濱委員、古川委員、斉藤(浩)、村山委員、日向委員、
中村(達)委員、寺口委員、杉崎委員、木村委員、一戸委員、景山委員、鈴木委員、
斎藤(幸)委員、山本(修)委員、石橋委員、星岡委員、山本(恭)委員、寺井委員、
春山委員、上野委員、平山委員、山元委員、秋元委員、織田委員

4 会議次第

(1) 開会

(2) 健康福祉政策課長あいさつ

(3) 議事

ア 副会長指名

イ 地域医療介護総合確保基金による各種事業の実施状況について

ウ 2025年に向けた医療機関毎の具体的対応方針と施設整備に対する財政支援制度
について

・千葉県千葉リハビリテーションセンターの再整備について

・千葉市病院事業のあり方について

エ 介護保険事業(支援)計画の進捗状況等について

(4) 閉会

5 議事概要

(1) 副会長指名

○ 会長より副会長を指名

(2) 地域医療介護総合確保基金による各種事業の実施状況について

○ 事務局説明

資料1により、事務局から説明

○ 意見交換・質疑応答等

特になし

(3) 2025年に向けた医療機関毎の具体的対応方針と施設整備に対する財政支援制度について

- ・千葉県千葉リハビリテーションセンターの再整備について
- ・千葉市病院事業のあり方について

○ 事務局説明

資料2-1、2-2、2-3、2-4により、事務局から説明

○ 関係医療機関説明

千葉東病院から以下説明

・今回の具体的対応方針の再検証にかかる評価項目の多くは、これまで地域医療構想調整会議で了承されてきた当院の役割とは異なる。セーフティネット系医療の提供は国立病院機構以外の設置主体ではおろそかになるきらいがあり、当院は地域の中で固有の役割を担っていると自負している。今回の分析・評価項目における特定の診療実績が乏しくとも、千葉医療圏において担うべき役割を積極的に果たしていく所存。

・セーフティネット系医療には一定程度の急性期医療の確保が必要と考えている。

・今回の分析データは平成29年度の病床機能報告をもとにしたものであり、すでに2年が経過し、この間医療を取り巻く環境は大きく変化している。令和元年7月に病棟集約、ダウンサイジングを完了し、より効率的な病床運用をすでに開始している。公的医療機関等2025プランは当院では平成29年10月に策定しているため、今後この点を反映させていく予定。

・当院は国立病院機構の一員として、その中期計画に基づき、地域から求められる医療を展開し、引き続き地域医療に貢献していく。

JCHO 千葉病院から以下説明

・当院は具体的対応方針の再検証を要請される病院となった。しかしながら、大学病院や大病院では対応しづらい合併症を持った透析患者等を積極的、総合的に診ていくことが当院の使命だと考えている。平成30年度的全紹介患者数3211名のうち47.5%にあたる1526名は透析関連の患者。当院は70年以上医療を提供してきた透析に実績のある病院である。今回再検証要請される病院となったが、地域にとっては必要な病院であると理解している。

・2023年秋に新病院がオープンする予定。現在199床の病床が、一般病床39床を返還しダウンサイジングして160床の病院となる。現在45床の地域包括ケア病棟は52床に増やす。このことは地域医療構想にマッチングしていると考えている。

・9月の台風15号でかなりの病院が停電した。当院は9月9日の昼には停電が復旧し、すぐに他院からの透析患者の受け入れを始めた。入院では千葉中央メディカルセンターから11名、新八街総合病院から8名の透析患者を受け入れ、外来では千葉東病院から13名、その他クリニック等から多数受け入れた。

・透析は命にかかわる重大な疾患。新病院では現在ある透析ベッド72床を100床に拡大する。透析患者にとって災害時でも安心して透析を受けられる新病院を目指していきたい。当院は独立行政法人ではあるが、国からの補助金や交付金は一切もらっていない。あくまでも独立採算制で、各病院が各地域でニーズにあった病院経営を行っている。今後も地域が必要とする医療に柔軟に対応し、人工透析とその合併症の治療を中心とした、専門性の高い医療で地域に貢献したい。

○ 意見交換・質疑応答等

(委員)

先ほど資料2-1で説明があった、「昨年度の取り組み状況と今年度の方向性」のところで、「病床機能報告のように大幅な急性期過剰という状況はなく、必要病床数に近い運用実態であることが確認された」とあるが、この時の病床機能報告というのは、今回出ている一覧表を基におっしゃっていることか。昨年度のものは一昨年の病床機能報告から出ているが、今回出ているものは昨年各施設が報告した病床機能報告だと理解しているが、そこを教えてください。

(事務局)

まず昨年度の病床機能報告のところだが、おっしゃるように一昨年のものを基にして昨年度の推計をした。今年度については、公表されるものがまだ出ていないので、そこについては以前のままを使っている。

(委員)

もう一度確認させていただきたいのだが、今回出ている資料2-2は、昨年度各病院が報告した機能別病床数だと思うが、それが千葉県としては急性期病床は必要ニーズにあった運用実態であるということをおっしゃっているという理解でよろしいか。

(事務局)

2025年における病床数のところでよろしいか。

(委員)

そうだ。

(事務局)

こちらは各医療機関からいただいた数字であり、その病床機能報告を基にした数字である。それに推計の計算式をかけて実態に近づくかどうかの確認はできていない。あくまでも昨年度の段階で確認されたという状況。一昨年の数字を基にして

病床機能の公表があり、それを実際の入院患者の状態に合わせて推計をかけると、一部回復期の患者が入っているとかそういったことがあって、急性期が大幅な過剰だといわれるほどの過剰ではなかった、というのが昨年度の推計結果である。それを今年度も同じような計算をして推計をやろうとしているが、まだできていない。

(4) 介護保険事業（支援）計画の進捗状況等について

- 事務局説明
資料3-1、3-2により、事務局から説明
- 意見交換・質疑応答等
特になし

6 閉会 午後8時5分